令和5年度草津市立教育研究所第2回運営委員会

日時　令和6年2月1日（木）
15:30～16:45
場所　教育研究所 研修室

次 第

1 開会のあいさつ（教育研究所長 木村 弘子）

2 令和5年度事業の実績と課題について

（1） 研修事業について

（2） 調査研究に関する事業について

（3） 教育相談に関する事業（やまびこ教育相談室）について

（4） スキルアップアドバイザー配置事業について

（5） その他

3 令和6年度の事業計画について

4 閉会のあいさつ（教育研究所長 木村 弘子）

令和5年度 草津市立教育研究所運営委員会運営委員（敬称略）

	団 体 等	氏 名	所 属
1	学識経験を有する者	糸乗 前	滋賀大学教育学部教授
2	校長会の代表	成田 陽子	笠縫東小学校長
3	園長・所長の代表	宗次 奈巳	笠縫東こども園長
4	教頭会の代表	藤井 泰三	高穂中学校教頭
5	小中学校教員の代表	雪竹 幸美	志津南小学校教諭
6	市社会教育委員の代表	橋本 篤典	草津市社会教育委員会議代表
7	市立小中学校の保護者	児玉 雅美	
8	市同和教育推進協議会の代表	片山 恵泉	市同和教育推進協議会副会長
9	公募による市民	西村 旭生	
10		眞﨑 英香	

○研究所職員一覧

		氏 名	担当業務
1	所 長	木村 弘子	所内事務の総轄 中学校教員のスキルアップ支援
2	副 参 事	恒松 睦美	SSW（ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ）
3	指導主事	岡﨑 仁志	所内事務・事業運営全般
4	専 門 員	湯浅 圭太	所内事務（児童生徒支援課と兼務）
5	研 究 員	杉本 久美香	調査研究
6	指 導 員	中谷 仁彦	やまびこ教室 担当 教育相談・学校支援
7		西澤 留美子	
8		藤井 弘美	
9		沢本 まゆ子	
10		角 玲子	
11		小川 絹子	
12	スキルアップアドバイザー	清水 康行	小学校教員のスキルアップ支援
13		山﨑 賢	
14		仲野 忠克	ICT活用のスキルアップ支援

●令和5年度事業の実績と課題について

令和5年度 夏期研修講座について

1 開設講座

今年度は人数制限を設けず、場合によりオンラインと併用する対策をするなど、希望者は全て参加できるよう計画した。【一般講座…11講座 くさつ教員塾…1講座】

また、NITS（独立行政法人教職員支援機構）のオンライン研修サイトを紹介し、いつでも研修を可能な体制を整えた。

2 受講状況

受講者数（一般講座・くさつ教員塾）… 644名

3 受講者評価

受講者が講座終了後、または動画視聴後に、満足度を4段階（「満足」「ほぼ満足」「やや不満」「不満」）で評価。

講座 平均満足度
94.26%

4 成果と課題

【成果】

・オンラインの併用ができるよう計画していたが、ダブルスクリーンにするなど、設備等工夫を凝らすことで希望者は全て対面で参加していただくことができた。

・1講座あたりの平均参加人数は54人と昨年度より11人増加した。

・草津市として重点として取り組んでいる、ESD、ICT については県内で環境保全に取り組まれている企業の方を招いて研修を行った。

・NITS のオンライン研修を紹介し、194回動画の視聴をしていただくことができた。

【課題】

・講座による人数の偏りがあるので、どの講座においても、なるべくたくさんの教員が参加できるよう、講座内容の精選および発信の仕方の工夫をする必要がある。

令和5年度 自己啓発講座について

1 事業概要　平日の夕方から行う、実技的な演習をメインとする研修講座

2 開設講座一覧（時間は主に、15:50～16:50、実質1時間）

	月日		演 題	講 師
1	6/26	月	【音楽科】箏を弾いてみよう～実際の授業ですぐに使える実技研修～	福井大学教育学部 非常勤講師 麻植 美弥子 さん
2	9/8	金	【図画工作科】秋の作品展に向けて7～いきいきとした表現へ 導くために～	草津市立老上小学校 教諭 山田 和美 さん
3	10/10	火	【体育科】今日の子どもの姿から、明日の体育の授業をつくる6	滋賀大学教育学部 准教授 山田 淳子 さん
4	11/21	火	【教育相談】不登校の子どもたちとその保護者の思いを考える	オープンスペース祐の風 代表 藤原 祐子 さん

3 会場および参加人数…**延べ参加者数 48人**

	会 場	参加人数		会 場	参加人数
1	教育研究所 2F研修室	5	2	教育研究所 2F研修室	29
3	老上西小学校 体育館	9	4	教育研究所 2F研修室	5

4 受講者評価…**全講座平均満足度 100%**

	会 場	平均満足度		会 場	平均満足度
1	教育研究所 2F研修室	100%	2	教育研究所 2F研修室	100%
3	老上西小学校 体育館	100%	4	教育研究所 2F研修室	100%

5 成果と課題

【成果】

・音楽科、教育相談と新たな分野について、講座を開設することができた。

・図画工作科については、青少年美術展覧会に向けて各校が取り組む時期に設定することでたくさんの参加があった。

【課題】

・参加人数に偏りがあるので時期を考えるなどの工夫が必要である。

・就業時間の中で行う研修であるため、どうしても開催時間が約 1 時間に制限されてしまう。講師の先生も講座の内容の精選に苦労してくださっている。

令和5年度 草津市教育研究奨励事業について

1 目的（概要） 市内の教職員・保育士の自発的な教育研究活動の推進を図る。
学校・園、学級等の経営や学習指導方法の改善と充実を図る。

2 応募部門

①	ステップアップ研究 (現職の経験年数は問わない)	これまでの研究実践をふまえて、さらに創造的な 実践や今日的課題を追究する実践を積み重ねた研究
②	フレッシュ研究 (若手教員を対象とした研究)	経験10年未満の教職員が行う実践研究
③	就学前教育研究 （幼稚園・保育所・こども園の 職員を対象とした研究）	幼児教育・保育の実践を整理し、レポートとして まとめることによって教育力・保育力を向上させる 実践研究

3 応募点数（　）内は、昨年度の応募数。

部門名	就学前教育	フレッシュ研究	ステップアップ研究	合計
就学前	2(7)			2(7)
小学校		13(20)	5(10)	18(30)
中学校		9(9)	1(3)	10(12)
合 計	2(7)	22(29)	6(13)	30(49)

4 成果と課題

【成果】

・経験の浅い先生方のスキルアップの場としての位置づけをしていただいているように感じる。

・今年度も応募締め切り後すぐに論文作成講習会を開催することで、完成までの見通しをもって取り組んでもらうことができた。

・夏の研究発表大会にもたくさんの先生方に参加していただくことができ、論文作成の参考にしていただけたと考えている。

【課題】

・昨年より応募人数が減っている。学校への負担軽減を考慮した上で、自分の力をつけていただくために、どのような形で応募いただくか、検討の余地がある。

・毎年応募してくださる先生も若干いるが少数であり、継続した研究や実践を考えたときに、そのような応募者がもっと増えていくような働きかけが必要である。

令和５年度　研究員による調査研究について

１　研究主題　　「スタディ・ログ」を生かして自ら学びを調整する子を育てる算数授業
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動を工夫して～

２　研究概要

「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの充実に関する資料」（令和３年３月文部科学省）では、「児童生徒が主体的に学習を進められるよう、それぞれの児童生徒が自分にふさわしい学習方法を模索するような態度を育てることが大切」と記されている。そこで、本研究では、昨年度の継続研究に「スタディ・ログ」の蓄積を取り組みに加え、自ら学びを調整する姿をめざすことにした。算数科の授業で「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を含んだ学習活動を設定し、児童が主体者となって学びに向かう授業づくりに取り組み、その効果を検証した。

３　研究の方法

（1）研究協力校（南笠東小、志津南小）の第６学年の児童を対象とした児童アンケート（意識調査）と授業者への聞き取りを行う。また、事前に算数科の授業を参観して実態や課題を把握する。

（2）研究協力校の実態や課題を踏まえ、算数科「データの活用」領域において「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を含んだ学習活動、授業計画を構想する。

（3）研究協力校の授業者と協働して教材研究を行い、実証授業を行う。

（4）実証授業での様子や事前・事後の児童アンケート（意識調査）の結果等から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を含んだ学習活動の効果を検証する。

４　研究の内容

２学級の実態から授業づくりに必要だと感じて取り組んだ内容
① 自ら課題を見つけ、見通しを持って取り組んでいける「単元計画の構想」
② 自ら既習内容を確認できる「スタディ・ログ」の蓄積
③ 自分の学びを評価し、調整できるように「ふりかえりタイム」の設定
④ 自ら学習活動を選んだり、考えたりする時間「フリー学習タイム」の設定

→

４つの取り組みについて次の資料の結果や記述で検証
① 児童アンケート（意識調査）
② 学びチェック（児童の自己評価）
③ 学びの工夫プリント（ふりかえり）

５　研究の成果と課題

研究の成果

（１）児童が主体的に学習を進めていく「単元計画の構想」は、児童が自ら課題を見つけ、見通しをもって学習を進めていくという意識を高めることができる。

（２）児童が自ら既習内容を確認することができる「スタディ・ログ」の蓄積は、児童が既習内容を把握し、それらを活用する姿を引き出すのに有効である。

（３）児童が自分の学びを評価し、調整する「ふりかえりタイム」の設定は、自分の学びへの関心を高め、自分の学習状況に合わせた学習活動を考える姿を引き出すのに有効である。

（４）児童が自ら学習活動を選んだり、考えたりする「フリー学習タイム」の設定は、児童が課題解決に向けて学習活動を工夫し、粘り強く解決しようとする意識を高めることができる。

今後の課題

（１）児童が「スタディ・ログ」を有効に活用できるようになるためには、経験を増やしていく必要がある。

（２）児童が自分の学びを正しく自己評価し、調整できるようになるためには、他者がどのように自己評価し、調整しているかについて知ることも重要である。（指導者からの適切な評価方法の紹介や児童同士による学びの調整方法を交流など）

（３）児童が自己評価して復習するだけに留めないために、新しい学びへ発展させる学習方法や学習内容をさらに掘り下げて深めようとする手立てを指導者が示す必要がある。

これらのことから、「スタディ・ログ」の蓄積をはじめとする本研究のような実践は、１回限りではなく、繰り返し積み上げていくことで、自ら学びを調整する姿を引き出すのに有用であることがわかった。

地域教材（わたしたちの草津）の編集について

1．今年度の取り組み（ワークシート・評価テスト・デジタル問題の作成）

令和５年４月に発行された社会科副読本「わたしたちの草津」（部分改訂版）と昨年度に編集した指導書に合わせてワークシート、評価テストを作成した。

また、タブレットＰＣ活用に向けて「わたしたちの草津」デジタル問題も新たに作成した。

・第１回推進委員会・編集委員会（全体会）・・・令和５年５月２６日
・各委員による作成、見直し、編集作業・・・令和５年５月～令和５年７月
・第２回編集委員会（推進委員、編集委員）・各グループで随時開催
・第２回推進委員会（原稿確認）・・・・・・令和５年１２月２６日
・第３回編集委員会（全体会）・・・・・・・・・令和６年２月８日予定

・ワークシートと評価テストについては、現在、事務局にて印刷・製本中。また、ＣＤ－Ｒへのデータ化も進行中。令和６年２月中に各小学校へ配布予定。
・デジタル問題については、２月１４日～２月２９日までを試行期間として公開予定。令和６年４月より、本格実施。

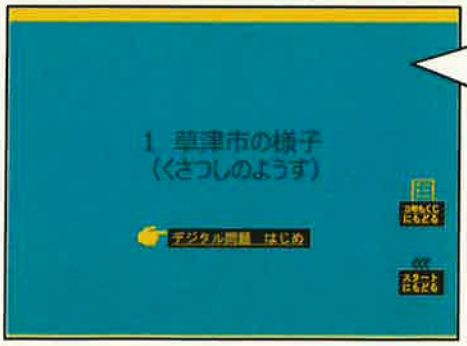
2．成果物の紹介

「わたしたちの草津」デジタル問題

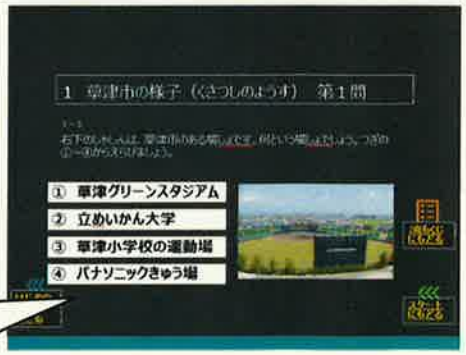
・副読本「わたしたちの草津」の学習内容について、編集委員が考えた問題をデジタル化した。
・児童のタブレットＰＣを用いてクイズ形式で取り組むことができる。

「L-Gate」の「教材・アプリ」の中で「わたしたちの草津」デジタル問題を公開。そのアイコンをクリックすると、このスタート画面が開く。

学年と単元を選択することができ自分の取り組みたいものを選ぶと問題画面へ移る。



問題は、単元ごとに５問ずつ設定されていて、単元終了後や評価テスト前、学期末・学年末の復習として取り組むことができる。



どの問題も選択問題となっており、正解すると次の問題に進むことができる。

3．次年度について

次年度は、令和８年度発行予定の社会科副読本「わたしたちの草津」の部分改訂に向けて、編集委員会が発足される予定。

令和５年度　やまびこ教育相談室

○　今年度の取り組み（成果）

①学校への復帰

やまびこ教室に在籍する中で、学校や保護者と話し合い、本人が無理のない学校との関わりを探っていく中で

⇒学校に登校できなかった状態から、定期的に登校（別室、放課後等含む）できるようになった。

⇒家庭訪問で担任と会う、またはやまびこ内で担任や関係教員と会うことができるようになった。

②特別活動を通して

毎月イベントを設定し、活動する中で

⇒行事に参加できたり作品を完成させたりすることで、達成感を得ることができた。

⇒苦手なことや初めてのことにも挑戦してみようとする気持ちが持てるようになった。

③様々な人やものとの関わり

家族以外のひとやものとのふれあいを持つことによって

⇒多くの子どもが異年齢の小集団の中に入り、他者と一緒に活動（ゲーム等）できるようになった。

⇒自分以外の人の行動や興味のあることに関心を寄せるようになった。

⇒パソコン学習システムの導入により、中学生を中心に進学を意識し、進んで学習に取り組んだり、学習に対して関心を持ったりするようになった。

④子どもの変化

同年代の子ども同士の交流や小集団での活動を行う中で

⇒表情が和らぎ、居場所の一つとして通室できるようになった。

⇒お互いのしていることや会話に耳を傾けたり注目したり、他を意識して生活するようになった。

⇒好きなこと興味のあることをして認めてもらうことで、自分に自信を持てるようになった。

⑤情報の共有

保護者、学校、他機関と面談や情報交換することで

⇒個々の子どもの様子や抱えている問題について共通理解が図れ、目指す方向性を共有することで、その子に応じた適切な支援を継続して行うことができた。

○　今後の課題や改善点

・面談や情報交換、支援の検討会をさらに充実させ、子どもの抱えている課題や現状を見つめながら、安定して過ごせる環境づくりと学校復帰の手がかりを探る。また、今後の方向性を確認できるシステムと、改善が見られない難しいケースの見立てや手だてについて具体的な方法を考える必要がある。

・小集団で過ごすことへの抵抗感を抱く子どもも多く、個別の対応を必要とする子どもへの人的配置の難しさと工夫。また生活リズムを整え、安定した通室、または定期的に通室でき、同年代の子どもと顔を合わせることができるような環境整備および本人、保護者との関わりを目指す。

・本人および保護者が中学卒業後も安心して生活できるように、他の相談機関へつなぐ等、手立てや関係機関とのネットワーク作りを充実させる。

令和５年度　教育相談に関する事業

1　目的

・不登校および不登校傾向にある児童生徒とその保護者に対して教育相談を行い、学校復帰、社会への自立に向けて、その支援を行う。

・学校と連携し、不登校等の問題解決に向けてケース会議等を通して支援する。

2　今年度の活動状況

(1)「やまびこ教育相談室」のパンフレットを各学校、関係機関に配布。市内の小中学校を通して全保護者宛てに案内チラシを年間２回（５月、１１月）配布。教育研究所だよりで教員向けに活動内容と利用方法の説明掲載。各学校とケース会議を実施。

(2) 教育相談の活動状況　令和６年１月15日　現在

①相談者延べ人数（前年度同時期との比較）

年度	Ｒ５	Ｒ４
面　談	444	432
電話相談	151	126
相談件数合計	595	558

相談内容（主訴）はほとんどが不登校、行き渋りで、いじめ、友人関係、集団不適応、学習困難、子育て、学校生活については少数である。

②相談者の内訳（前年度同時期との比較）

相談者	保護者		小学生		中学生	
年度	Ｒ５	Ｒ４	Ｒ５	Ｒ４	Ｒ５	Ｒ４
面　談	219	172	117	81	107	179
電話相談	151	114	4	4	6	5

③相談対象者の内訳（前年度同時期との比較）

相談対象者	小学生		中学生	
年度	Ｒ５	Ｒ４	Ｒ５	Ｒ４
面　談	217	141	227	291
電話相談	79	44	71	77

今年度は小学生が対象の相談が増加、中学生は減少。相談のきっかけは「学校から」と「チラシを見て」が多い。

3　学校支援

児童生徒により良い支援を行うため、学校と連携し、ケース会議、電話や面談による情報交換を行っている。教職員からの保護者への当室の紹介や、教職員から当室に事前に連絡が入ることも増えてきている。

4　今後の課題

市内の教職員にやまびこのシステムや活動を十分理解してもらえるよう働きかける。

不登校等の課題を抱える児童生徒について、学校との綿密な連携の中で、家庭環境・個人の性格傾向・発達の課題等を総合的に把握、検討し、早期に適切な対応を図る。

スキルアップアドバイザー配置事業について

◆訪問回数及び支援人数（令和５年度　１月末現在）

授業支援	（訪問回数）	（支援人数）
小学校	１８３回	２６８名
中学校	４０回	４３名
夏季講座	２回	３７名

ICT 支援	（訪問回数）	（支援人数）
小学校	７２回	２８５名
中学校	１回	１名
夏季講座	２回	３７名

◆訪問・支援内容

・年度初めの校長面談（4 月）
・授業参観と指導助言（４月～６月）
・OJT リーダーの授業参観と懇談（６月～７月）
・夏季支援講座（７月）
・指導案検討（８月～９月）
・研究授業と授業検討会（9 月～12 月）
・指導内容についての校長面談（12 月）
・授業参観と指導助言（1 月～2 月）
（予定）年度末校長面談（2 月～3 月）

・年度初めの校長・情報担当者面談（4 月）
・授業支援（４月～2 月）
・市教育情報化リーダー養成研修会（5 回）
・夏季支援講座（７月）
・市プログラミングコンテスト（12 月）
・市 ICT 研修会（４回）
・CBT 健康観察フロー作成（８月～12 月）

受講者の声（一部）

第一回参観授業（5月）

▷新規採用後２年目の先生
・子どもたちが自分でめあてを考え、そこに向かう姿勢はよかったが、ゴールが曖昧になってしまい、まとめが弱くなってしまった。
・単元全体を見通して、ゴールや書く時間のめあてが立てられていればよかった。
▷他市から転入の先生（経験あり）
・内容を教えることばかりに意識がいっていて、深める場面がなかった。
▷臨時講師（今年初めて）
・グループ活動や話し合いの場を設定して、考えを交流する場をつくっていきたい。

OJT リーダーの参観（6月）

▷新規採用後２年目の先生
・子どもの発言回数が多く。子ども主体で授業づくりがされていた。何気ない一言で子どもが考える時間を増やしていた。また、ノートに１時間の学習成果が明確に記されていた。
・大まかな見通しは、子どもに伝えてから授業をすることを取り入れたい。シンプルな指示で子どもが困らないようにしていきたい。
▷他市から転入の先生（経験あり）
・ロイロノートと通常のノートの使い分け。３年生でどこまでできるか分からないがうまく使い分けをして、どちらも有効的に使いたい。
▷臨時講師（経験あり）
・話し合いのパターン（班、ペアなど）を子どもたちがしっかり流れとして覚えており、スムーズに切り替えられていた。

研究授業（10 月～12 月）

▷採用後２年目の先生
・めあての提示の方法を改善する必要がある。こちらからの押し付けでなく、子どもの困り感や疑問から「考える必然性」を生むようなめあての設定を行う。
・このように変容してほしいと思ってゴールから組み立てたことはよかった。○年生の思考の流れをつかみ、もっと分かりやすい授業を作っていきたい。
▷育休明けの先生
・ロイロノートを私自身も子どもたちも、少しずつ使えるようになった。苦手な文章を書く学習でも、子どもたちが意欲的に没頭できていた。ただ、活動の見通しを簡潔に伝えられず、説明の言葉が長かったのが反省。
・発問が明確ではなく、教師がしゃべりすぎるため、じっくり考える時間が確保できなかった。
▷臨時講師（学級担任は初めて）
・授業の中で、児童の発言回数や考える時間が少なく、指導の時間が多すぎた。教師が主導となりすぎないように、児童の考える時間や発言の場を増やしていきたい。全体交流の時に先生と発言者の１対１にならないように、切り返しの発問を入れるなど、全体に返していくようにしたい。

教科書センター

教科書展示会（令和５年度）

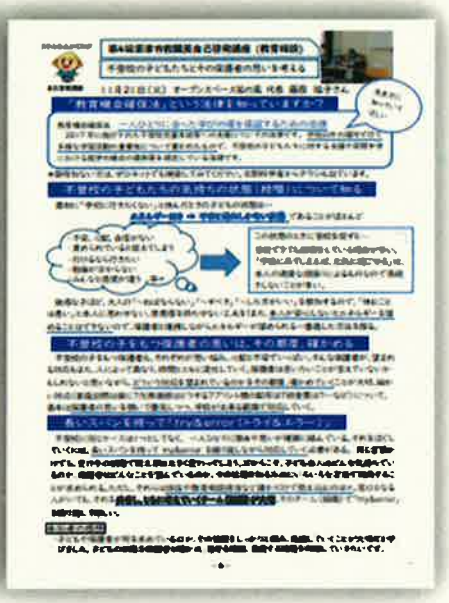
期間：６月２日（金）～６月３０日（金）　（日・月曜日を除く）

場所：　アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）

のべ３８人の方が来場しました！

「研究所だより」＆「所報」の発行について

★「研究所だより」：年間数回を基本に、各保幼小中学校ならびに関係機関へ送付
草津市立教育研究所 HP に PDF で掲載



★「所報」：１年間の取り組みを CD-ROM にまとめ、各保幼小中学校ならびに関係機関へ送付予定

研究所ホームページの移設

★令和６年度（４月）より、現ホームページを廃止し、市公式ホームページ内で情報を公開していきます。（現在は併用しています。）

現ホームページ　http://yamabiko@kenkyujo.skc.ed.jp

研究所ホームページ(市HP内)　https://www.city.kusatsu.shiga.jp/kosodate/kyoiku/index.html

研究所 HP
QR コード

令和6年度の事業計画について

●職員の研修に関わって

・教職員および保育士の資質向上に資する事業を展開する。

・草津市の教育および保育向上を図る事業を展開する。

①草津市教職員夏期研修講座 … 10講座程度を予定

②自己啓発講座 … 5講座程度を予定

③教育研究奨励事業 … 市内20小中学校から各校1本以上の応募を目指す

●調査・研究に関わって

・学習指導要領（H29 告示）に対応した教育課程に関する調査、情報収集を行う。

・研究員による調査研究を継続する。

・令和8年度から3年間使用する副読本「わたしたちの草津」の一部改訂作業を行う。

●スキルアップ事業に関わって

・小中学校教員の授業づくり、学級づくりへの指導支援を行う。

・ICT機器等を活用した授業づくりをサポートする。

①対象教員に対する個別指導を行う。

②夏季研修講座でのICT機器を活用した授業づくりの演習を行う。

③プログラミング学習の支援を行う。

●教育相談に関わって

・不登校および不登校傾向にある幼児児童生徒とその保護者への支援を行う。

①電話および来室による教育相談を実施する。

②学校および関係機関と、課題解決に向けての連携を密にする。

③不登校の子どもを持つ保護者会を実施する。…年間3回程度を予定

・教育支援センター「やまびこ教室」における小集団活動を通して、児童生徒の学校復帰あるいは社会的自立を目指す。

①他機関との連携

②学習支援ソフトの活用